

昭和大学附属烏山病院だより あおぞら

〔発行責任者〕 病 院 長 岩波 明
〔編集責任者〕 広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕 〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕 03-3300-5231(代表)

第150号

〔2020年1月31日発行〕

新年のご挨拶

看護部次長 池田 勝之

新年、明けまして、おめでとうございます。
本年も、どうぞ、よろしく、お願い致します。

ふり返ってみますと、昨年、全国各地で、自然災害に見舞われた1年でした。関東地方においても、史上最大規模の台風による被害で、たとえば、千葉県では、強風で多くの家屋の屋根が吹き飛ばされたり、長期にわたって広い地域で停電が続くなどしましたし、東京都でも、大規模な鉄道各線の計画運休が実施されたり、多摩川が氾濫して、浸水したタワーマンションが機能停止状態になったことなどは、どなたの記憶にも新しいところかと思えます。

そんな中、当院では、一昨年度より、看護部が中心となって防災対策に取り組んできました。ヘルメットや搬送用の担架など、防災備品の整備を進めるとともに、病棟・外来を含めた各部署単位で、地震・火災の発生を想定した避難・誘導訓練を繰り返し実施しています。その結果として、これらの活動に対し、一昨年、昨年と続けて、東京消防庁より表彰して頂きました。元来、日本は、台風や地震など、自然災害の多い国です。そう遠くない未来には、東南海、もしくは、首都直下型の地震発生も予想されてもおり、今後も、引き続き、入院中の患者さまの安全をお守りするため、そして、ご家族のみなさまにも安心して頂けるよう、予期せぬ災害への備えを積み重ねていきたいと考えています。

また、今年度は、当院において、昨年より準備を進めてきましたD-PATが始動します。このD-PATというのは、東京都の依頼に基づいて出動する「災害派遣精神医療チーム」のことで、いち早く現地に赴き、被災された精神障害者の支援を行ったり、家族の死や自宅の損壊など深刻な現実直面して、こころに深く傷を負った方々の初期ケアにあたるのが役割として期待されています。医師、看護師、精神保健福祉士や、事務職等が1つの医療チームをつかって活動します。昨年、当院からは、医師2名、看護師2名が、その研修を終えて資格を得ることができました。

かつて、東日本大震災の折には、放射能による大きな被害のあった福島県内を中心に、当院より、同様のチームを派遣した例がありますが、今回の東京D-PATは、行政のシステムとして運用されるもので、より広範で多様な活動が求められることとなります。院内の防災活動に留まらず、当院が、大学附属の精神科病院として、より広く、社会に貢献できたらと思います。



新入職員紹介

精神医学教室 助教 奥村 真一



初めまして。

2020年1月よりB4病棟でお世話になっております医師の奥村真一と申します。

出身は東京都で、信州大学人文学部を卒業した後にしばらく働いてから、高知大学医学部で勉強いたしました。初期研修後は、単科の精神病院で働いていましたが、もう一度基本から学びなおしたいと思い昭和大学附属烏山病院に入職させていただきました。

アルバイト先の病院で昭和大学の先生と出会ったことや、昨年まで常勤で働いていた病院の作業療法士のほとんどが昭和大学出身の先生たちだったので、何かご縁があったのだと思います。

烏山病院でいろいろ学んでゆきたいと思っていますので、どうかよろしく願いいたします。

サンドバック

精神医学教室 講師 常岡 俊昭

「どすん」「どすん」という何かを殴る音が病棟から聞こえてきます。ホールにいる患者さんも最初はみんな驚きますが、すぐに何事もなかったかのように自分たちの話に戻ります。そのうちスタッフが「そろそろ時間ですよ」との声掛けでガラス張りの部屋から患者さんが出てきます。昨年10月からB4病棟では旧喫煙室にサンドバックを置いてストレス解消に使ってもらっています。できる限り開放的な環境をとっては思っていますが、閉鎖病棟で環境調整も必要な方が多いB4病棟では入院が長期になり、また自身ではどうしようもないルールに振り回されてストレスがたまる方もいます。もともとは、そのストレスからロッカーを叩いてしまった方がいたときに、「もっと安全にストレスを解消できれば」というスタッフの提案から始まりました。かえってイライラするのでは？他の患者が落ち着かなくなるのでは？など不安の声もありましたが始めて見たら大きなトラブルはありません。

長い入院生活、少しでも負担が少なくなるように、スタッフ一同で考えていきたいと思っています。何かご意見ありましたらぜひ教えてください。

『TeamSTEPPS（チームステップス）～ SBARについて』

医療安全管理担当 越後 森生



2019年12月19日・12月26日の2日間、医療安全講習会を開催しました。今回のテーマは医療安全から見たコミュニケーションについてです。医療技術及び器具が発展してきた昨今において、より人と人とのつながり『情報伝達』の正確性が求められています。その中でTeamSTEPPS（チームステップス）、アメリカ発祥の医療安全に関するチーム体制の枠組みを紹介しました。このTeamSTEPPS

における重要な4つのスキルにコミュニケーションがあり、このスキルを高めるため有効とされているのがSBAR（状況・背景・アセスメント・要望の頭文字）です。医療安全は多職種も含めチームで取り組んでいくことで医療事故防止に効果があると言われています。

当院においては職員一人一人が同じ方向（メンタルモデル共有）を見据え医療安全を意識した病院を目指していきます。

上野お出かけイベント

デイケアメンバー N・Kさん

ついこの間は、お正月だなあ、年明けたなあ、、と書いていたがもう年末です。クリスマスです。2019年11月21日(木)デイケアではお出かけイベントが行われました。烏山病院のデイケアでは、メンバーさん（利用者さん）が中心になり外出イベントを企画し電車やバスに乗って遠出をします。今回選ばれたのは「上野恩賜公園」でした。動物園、美術館、博物館の3つのコースが用意され、私は美術館を選びました。美術館ではゴッホを中心にした、印象派等の画家の作品が展示されていました。ゴッホ

が生きた時代は産業革命の頃で、日本でいえば、幕末、明治の頃です、ゴッホの晩年は精神科病院で過ごしたそうです。展示作品とともにゴッホの生涯が紹介され、私は作品にたいする強いこだわりや情熱を感じました。

博物館コースは混雑で大変だったそうですが、動物園コースの方々は「楽しかった。」と言っていました。最後に集合写真を取り、解散しそれぞれの自宅へ向かいました。

（ここだけの話、私は秋○原へ寄り道して帰りました。）



臨床薬理研究所のご紹介

臨床薬理研究所 川島 朋子

皆さんはお薬を飲んだことはありますか？多くの方は「ある！」というご回答になると思います。では、身近にあるお薬がどのように開発されたかご存じでしょうか？新しいお薬の開発は、「くすりのもと」となる物質を探すところから始まり、それが動物に対してどのような効果があるかが試験されます。そこで効果が認められた「くすりのもと」は、今度はヒトに対しても効果があるのかや安全に使用できるかどうかなどの確認（これを「治験」といいます。）が行われます。「くすりのもと」の分量や確認の対象者を変えながらたくさんの情報をあつめて、国に薬として世に出せるかの審査申請を行います。そこで承認を得られて初めて皆さんの手元に届きます。

臨床薬理研究所は平成23年10月に臨床薬理研究センター（平成26年4月に現在の名称へ変更）として開設されて以降、創薬ボランティアさんの協力のもと、皆さんが安心して使えるお薬の開発の手伝いをしています。また、検査方法や治療方法がよいと判断できるための根拠をつくるための試験（「臨床試験」といいます。）なども行っています。現在は初めてヒトに対して使用するお薬の試験や、ジェネリック医薬品の開発に関する試験、日常生活における活動状況を測定する試験などを行っています。

今後も安全で適切な試験を実施できるよう心掛けていきます。もし治験に興味をもってくださった方がいらっしゃいましたら、ぜひホームページから創薬ボランティアの登録をお願いします。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～土曜日・8時30分～17時
電話：月曜日～金曜日03-3300-5329
土曜日 03-3300-5231
◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時
◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《12月》	入院(前月)	外来(前月)
◆延患者数	8,125 (8,013)	6,370 (6,057)
◇一日平均患者数	262.1 (267.1)	265.4 (263.3)
◆診療実日数	31 (30)	24 (23)

【編集後記】

あけましておめでとうございます！

2020年が始まりました。いよいよ東京オリンピックが開催される年になりました。皆さんはどのような年にするか計画は立てられましたか？今年の子（ネズミ）年ですが、ネズミは子供をたくさん産むことから、繁栄の年になるといわれているそうです。また、十二支の最初の年なので新しい物事を始めるのに最適だそうです。

私も日ごろの運動不足を解消すべく、ジムに通い始めました。インフルエンザや風邪などが流行し、体調を崩しやすい時期ではありますが、うがい・手洗いを心掛け、元気な1年のスタートをきりましょう！今年1年が皆さんにとって良い年になるようお祈り申し上げます。

(広報委員 川島)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちして

おります。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp

